

# 包摂的コミュニティプラットフォームの構築 現状報告（2022年8月）

PD候補 久野譜也

筑波大学大学院 人間総合科学学術院 教授  
スマートウェルネスシティ政策開発研究センター長

## 日本のコミュニティの課題

- 1) 自分が属するコミュニティ以外の人に対して排他的な傾向が強い
- 2) 寛容性・自律性が失われ、自己中心的に陥っている
- 3) 政治・自治体・アカデミア・企業等において社会をより良い方向に変化させる人材が不足
- 4) 住民の「健幸」に対するリテラシーが相対的に低い。それゆえ、変化を受容しようとせず、イノベーションも起こりにくい状況が生まれている
- 5) 社会的孤立に加えて、地域に居場所のない「子育て女性難民」、「ヤングケアラー」など放置できない課題が山積
- 6) 認知症の高齢者増大に対するケアに対して既存制度における限界や巨大資産の事実上の塩漬けによる経済への悪影響



- 1) 社会的孤立者を減じる仕組み・サービスの創出
- 2) ハイリスク者に加えて低・中リスク者を含めた妊娠・出産・育児を切れ目のない包括的支援体制としてのコミュニティの創出（社会的処方）
- 3) 社会的要因と密接な関係を持つ女性の健康づくり政策やサポートサービスの具体化
- 4) 在宅での高齢者・要介護者等がより健康かつ生きがいを持って暮らせる環境整備、機器・サービス、及び地域資源としてのソーシャルビジネスの充実
- 5) 団地再生も含めて、日本の小・中・大都市の何れもが健康都市へ転換するための政策パッケージの具体化
- 6) 寛容性及び自律性の高い国民を増加させるための社会技術の開発
- 7) 包摂的コミュニティを促進する制度の拡充・新設

## 本FSの組み立てにおける大事な視点

### 【背景】

こまでは、多様な特性を持つ国民（女性、子育て期、障がい、LGBTQ、介護、後期高齢など）へのきめ細かなサポートが不十分、かつ地域ではハイリスク対応がメインで、低・中リスク者への働きかけは弱く、落ちてきたら拾うという仕組みだけで、落ちる人を減らし、さらによりWell-beingが高い人を増加させるという視点が、やや欠落していたのではないか



ハイリスク対応のセーフティーネットの新設・充実に留まらず、そこに陥る国民を減じる仕組みづくりを行う。加えて、コミュニティで積極的に多様な人々と交流を受け入れながら（寛容性）、より生きがいを感じる暮らし（Well-being）を志向して、実践する国民（自律性）をサポートできる機器・サービスも育成しながら、最終的には社会としての変容がみられる社会技術を開発する



全体統括  
PD候補  
筑波大学大学院  
人間総合科学学術院  
久野 譜也

## 目指すべき6年後の姿

- 1) 高齢者の虚弱化、各世代の社会的孤立や健康被害を予防でき、かつ寛容性・自律性に富むコミュニティを構築
- 2) 障がい者、要介護者、LGBTQ、ヤングケアラー等と健常者が同じコミュニティで支えあいながら生きがいが高まるコミュニティを構築

## 6年後の姿を可能とするFSの方向性

- ①各世代の社会的孤立者を生む背景を多角的な観点から検討し、I) 多様な特性を持つ人々の価値観や行動をより望ましい方向へ変容できる社会技術、II) 皆が生きがいを持った生活を楽しめる、寛容性に富むコミュニティづくりのための社会技術、を明らかにする。
- ②障がい者、要介護状態などハンディキャップがあっても、I) 生きがいのある生活をおくるための環境整備の方向性、II) とくに整備が遅れている「在宅」における支援サービスの開発・普及、III) 生活支援機器サービスの課題、等を明らかにする。
- ③多様な国民のWell-beingを向上させ、包摂的コミュニティの構築に寄与できる保険者向けのデータヘルスAI、及び無関心層も開始、継続できるパーソナルサービス（自然科学＋社会科学）の開発に向けた課題を特定する。

### 課題 1

つながりを支援するインフラ整備  
+在宅等における電子的情報の活用促進



SPD候補①  
東京大学大学院新領域・創成科学研究科  
二瓶 美里 准教授



国際医療福祉大学大学院  
石山 麗子 教授

### 課題 2

多様な世代における社会的包摂コミュニティの隘路の検証



SPD候補②  
筑波大学  
人文社会系  
松島 みどり 准教授

### 課題 3

給付制度に頼らない福祉機器・サービスの環境整備



SPD候補③  
国立障害者リハビリテーションセンター研究所  
井上 剛伸 部長

### 課題 4

科学・社会技術の地域コミュニティにおける実装



SPD候補④  
国立循環器病研究センター  
大津欣也 理事長

## FSでの調査研究の目的

本チームとしての包摂的コミュニティのあり方を定義し、実現するための科学 & 社会技術の開発と新産業及び制度の方向性を明らかにする